

## 会場へのアクセス

会場 函館サーモン・  
まるなまアリーナ

函館市湯川町1丁目32番2号

### 市電をご利用の場合

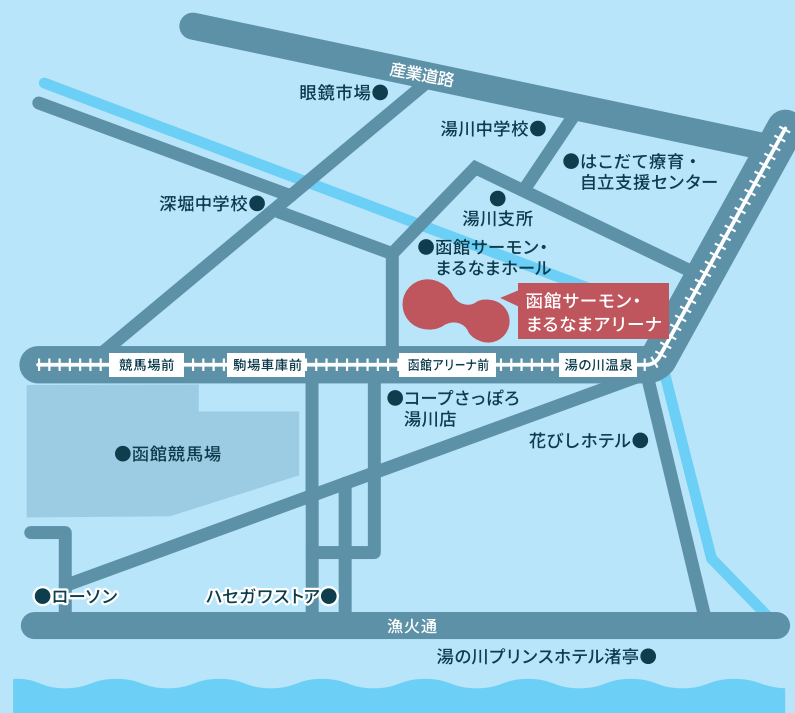
「函館アリーナ前」下車徒歩3分

### バスをご利用の場合

「函館アリーナ前」下車徒歩3分

### 自家用車をご利用の場合

会場には駐車場（2時間を超えると有料）が  
ございますが、スペースに限りがありますので、  
できる限り公共交通機関をご利用ください。  
路上および近隣店舗等の駐車場への駐車は、  
迷惑になりますので、おやめください。



アカデミックリンクの開催にあたり各企業の皆様から  
ご協賛を賜りました。ありがとうございました。

株式会社いちたかガスワン・株式会社エスイーシー・  
株式会社近藤商会・株式会社ニューメディア函館センター・  
株式会社函館新聞社・株式会社北海道新聞函館支社・  
株式会社森川組・五稜郭タワー株式会社・  
佐藤公郎建築設計事務所・函館山ロープウェイ株式会社・  
北海道ガス株式会社函館支店・有限会社三和印刷（敬称略・順不同）

出展ブース、ステージの審査にあたっては、  
次の企業・団体などの皆様にご協力賜ります。  
ありがとうございます。

株式会社北洋銀行・株式会社松本組・TOPPAN株式会社  
産学官連携「クリエイティブネットワーク」・市立函館高等学校・  
特定非営利活動法人函館市青年サークル協議会・  
函館市経済部・北海道渡島総合振興局・  
北海道教育庁渡島教育局・北海道退職校長会函館支部・  
北海道中小企業家同友会函館支部（敬称略・順不同）

### 主催

キャンパス・コンソーシアム函館

### 加盟団体

公立はこだて未来大学 / 函館大谷短期大学 /  
函館工業高等専門学校 / 函館大学 / 函館短期大学 /  
北海道教育大学函館校 /  
北海道大学大学院水産科学研究院・水産学部 /  
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター /  
ロシア極東連邦総合大学函館校 / 函館商工会議所 /  
函館市

### 後援

北海道教育庁渡島教育局

お問い合わせ キャンパス・コンソーシアム函館 事務局

〒041-8655 北海道函館市亀田中野町116番地2

公立はこだて未来大学内

TEL. 0138-34-6121 FAX. 0138-34-6101

MAIL. info@cc-hakodate.jp

CCH キャンパス・コンソーシアム函館

公式サイトはQRコードからアクセス

<https://www.cc-hakodate.jp/>



コンブ  
de  
オフセット

本発表会は、CO2排出量が実質ゼロの  
環境に配慮したイベントとして開催されます

会場で使用するエネルギーから排出されるCO2は、北ガスが購入した  
南かやべの養殖真昆布が吸収するCO2と差し引き（オフセット）されます。



KITAGAS

HAKODATE  
アカデミック  
リンク2026

CCH キャンパス・コンソーシアム函館

# はこだて高等教育機関 合同研究発表会

街が僕らの  
アカデミア

進路を考えるきっかけに

先輩たちの研究を学ぶチャンス

今、函館で学べることが見えてくる

2026 11.8日 12:00-15:00

会場 函館サーモン・まるなまアリーナ 函館市湯川町1-32-2

ブースセッション：武道館

CCH 20周年記念ステージセッション：多目的会議室

# HAKODATE アカデミックリンクとは？

函館市内8高等教育機関の学生が一堂に会し、  
普段研究している内容や成果などをポスター展  
示や実演などによって発表し合う合同研究発表  
会です。会場では、学生とのコミュニケーション  
も楽しめます。最先端の研究や地域課題へのア  
プローチなど、函館の学生たちの取り組みをぜ  
ひ見にきてください。

函館市内にある高等教育機関(大学・短大・高専)では、学生・教員が様々な  
研究をそれぞれのキャンパスで進行中です。これらの一端ではありますが、  
市民の皆さんにわかりやすくご紹介し、各研究テーマの協力・連携の可能性  
を探るべく各校が一堂に会します。

当日は、ブースやステージでの発表をとおして、ここ函館を舞台に日々繰り  
広げられている研究活動がより身近に感じられるはずです。中学生・高校生  
の皆さんには今後の進路決定の参考に、企業の皆さんには学生の発表から  
新たなアイデアを探し出す機会になりますので、ぜひともご来場ください。  
キャンパス・コンソーシアム函館は、今年の2月に20周年を迎えました。ス  
テージセッションは『CCH20周年記念ステージセッション』とし、「函館市  
の未来に向けた取組」を発表テーマに地域課題の解決やビジネスアイデア  
を発表します。皆さまのご来場を、心よりお待ちしております。

## CCH 20周年記念 ステージセッション参加チーム

ステージでの発表 12:35～14:30 11分間の持ち時間で繰り上げられる  
ステージでのプレゼンテーションです。

### 1 共同研究 チーム みらいひらぽ(未来大×函館市 医師会看護・リハビリテーション学院)

函館の銅像になりきれ！  
ー地元愛があなたの健康を作る

プレイヤーが地元の銅像などのポーズをまねて、姿勢の近  
さを点数で示す、スマートフォンなどを使うシンプルで達  
成感が持てるエクササイズ・ゲームを提案します。単なる  
ゲームではなく、理学・作業療法の観点からポーズの難易  
度や健康アドバイスも行います。

チーム代表 笹木大嵩  
チ ャーム 員 中川絢音・成田来琉未・中村友紀・松廣桃花

### 2 北教大 チーム 函館の死生学研究 プロジェクトチーム(地域と宗教文化班)

函館の看取り文化を支える語り  
ー宗教者の知恵を地域資源に

函館の宗教者が語る死の受容の知恵を地域の死生観を育  
む重要な資源として紹介する。死後の世界観や別れの語り  
は無宗教の人々にも生き方のヒントを与え、より良く生を  
営むための視点をひらく。地域で生と死をつなぎ直し、心  
の支えとなる文化の再生を探る。

チーム代表 森田結柑  
チ ャーム 員 佐藤こはる・夢原大地

### 3 函館大 チーム 園とその愉快的仲間たち

日韓比較から描く函館の未来  
ー地域資源を活用した経済活性化モデルー

韓国・羅州市との比較を通じて、函館市が持つ海洋・水  
産・観光・再生可能エネルギーなどの地域資源に着目す  
る。日韓のGX事例から得た知見をもとに、地域資源を活  
用した新たなビジネスや、函館の未来を見据えた地域経  
済の活性化モデルを提案する。

チーム代表 川代莉音  
チ ャーム 員 福井紀奈・池田莉都・北山春妃・民谷天・  
富永ひな・原田杏菜・平田寧音

### 6 特別参加 チーム 東京理科大学長万部キャンパス おしゃむつきー

日本流デザイン思考を、designする

イノベーションを起こす思考法と呼ばれるデザイン思考を  
批判的に捉え、長万部でのプロジェクトをもとに日本に適  
したデザイン思考とは何かを考察し、提案する。イノベ  
ーションを生み出すためのマインドセットについて、その姿  
勢や考え方を明らかにする。

チーム代表 西澤ひとな  
チ ャーム 員 中村堇乃・上杉泰生・飯沼隆成

### 7 函短大 チーム 函短誰通制度チーム

誰でも通園制度の実態

2026年より誰でも通園制度が本格的に運用開始となった  
が函館市における誰でも通園制度の実態(園の体制、保育  
者の工夫等)を明らかにし、今後の課題や好事例などを検  
討したい。

チーム代表 鈴木凜  
チ ャーム 員 重村季歩・田内こはね

### 8 特別参加 チーム 函館大学付属柏校高等学校 函館市×柏校 Mobility Revolution

音楽フェス×高校生  
ー交通の可能性を探るー

函館では長らく大型音楽フェスが開催されていなかった。  
コロナ禍以外の要因として、本研究では交通機関の不便  
さに着目した。音楽フェスにおいて交通改革を起こし、よ  
りよい函館を作っていく。そんな新たなステージが幕開け  
する。

チーム代表 吉崎俊  
チ ャーム 員 古村大翔・廣岡昊瑛

### 4 函高専 チーム Re:HAKODATE

石の街から港町へー  
レスタウロが照らす函館の未来づくり

イタリア留学で、石造建築を数百年使い続けるレスタウ  
ロ(修復文化)と防災を両立させる考え方を学びました。  
この学びを、地震国であり歴史的建造物が数多く残る  
函館に活かし、建物を長く生かしながら災害に強い、魅  
力ある函館の未来を提案します。

チーム代表 伊藤凜音

### 5 未来大 チーム おさかな日和

Aquarist:デジタル水族館の社会実装への挑戦

函館の海をデジタル上で再現するプロダクト「Aquarist」  
を紹介する。函館周辺の小学生を対象に、魚のクイズや海  
洋生態系を題材としたミニゲームを通じ、楽しみながら函  
館の海について学べる体験を提供する。

チーム代表 八谷隆斗  
チ ャーム 員 祐川雅治・山本たくま・館合望・池島諒真・  
齋藤花純・佐藤雅弥・中村優花・藤井康輔・  
大西歩希・浦口遼・岡山鈴華・井内恒之介・  
中根大輝・藤田大晴

### 6 北大水 チーム チームsatellite

Look at bigger picture  
ー函館から世界へー

近年、人工衛星の利活用が急速に進み、通信や環境観測  
だけでなく、一次産業や金融等の分野でも利用されつ  
つある。自分は新しい人工衛星の観測技術の開発に携  
わっている。本発表では、函館の地域課題解決のため  
にも世界へと目を向けることの重要性を訴えたい。

チーム代表 仙北義典

### 9 函館大 チーム 園とその愉快的仲間たち

日韓の地域GX推進に関する比較研究  
ー函館市と羅州市を事例としてー

本発表では、函館市と韓国・羅州市のGX推進について、関  
連施設の見学や日韓大学生へのアンケート調査を通じて  
比較する。両地域のGXの取組や環境意識、行動の違いを  
整理し、地域GX推進の特徴と課題を考察する。

チーム代表 川代莉音  
チ ャーム 員 福井紀奈・池田莉都・北山春妃・民谷天・  
富永ひな・原田杏菜・平田寧音

### 10 大谷短 チーム 風とまちの心理学

洋上風力でまちは変わる？  
ー上ノ国中学生と考える地域の未来

地域の未来を担う中学生にとって、洋上風力発電は「自分  
たちのまち」や「自分の将来」を考えるきっかけになるの  
でしょうか。檜山沖で計画されている洋上風力発電を題材  
に、上ノ国中学校と取り組む地域づくりとキャリア教育の  
実践を紹介します。

チーム代表 藤島志乃  
チ ャーム 員 江成健児・越野美帆・佐藤勇心・吉田龍



### 7 北教大 チーム 函館の死生学研究プロジェ クトチーム(地域と医療文化班)

函館市の在宅看取りを支える地域モデルの  
構築へ向けてー医療者の語りからみえる未来

「最期をどう迎えたいか」。その問いに地域がどう応えるか  
を探るため、看取り医療の現場を丁寧に調査し、家族と本人  
が安心して過ごせる支援の形を描く。増える在宅看取り  
に向け、医療関係者の声をもとに函館から未来の看取り支  
援モデルを考察する。

チーム代表 佐竹来実  
チ ャーム 員 奥山菜穂・沼澤佑実

### 8 函館大 チーム はじか者たちの逆襲劇

はじき野菜を起点とした道南地域の  
「域内循環」ビジネスモデルの提案

廃棄される「はじき野菜」を起点に道南地域の「域内経済循環」の構  
築を目指す産学連携の実証実験を行いました。この成果から、【生  
産・物流・販売】を繋ぐ持続可能なビジネスモデルを提案をします。

チーム代表 工藤悠二  
チ ャーム 員 伊東脩弥・川代莉音・谷内田晴・熊谷慎・  
見年代美心・小園俊馬・小林聖也・杉淵琉星・  
福井紀奈・本田知希・水尻麗羽



### 11 特別参加 チーム 函館中部高等学校 科学部昆虫班

函館市とその周辺地域に生息する  
アブラムシのセラチアの分布

本研究では、簡易PCRとアガロースゲル電気泳動を用いて  
七飯町周辺地域に生息するアブラムシのセラチアの感染  
率を調査した。その結果、ゲル内にDNAバンドは確認でき  
なかったが、着色は確認された。また、結果から実験に使  
用する試薬について考察した。

チーム代表 石毛久瑠美  
チ ャーム 員 川崎蒼依

### 12 未来大 チーム 長田・西沢研究室 デザイン領域⑥

ことばの具現化による  
新たなことば体験の提案

比喩的な慣用表現をあえて文字通り具体化し、ポジティ  
ブなエラーを生み出すプロダクトを提案します。作品の展示  
や体験を通じ、笑いや会話を誘発することで、人々のコ  
ミュニケーションを触発する新たなことば体験を創出し  
ます。

チーム代表 江戸真彩

### 13 北教大 チーム 北教大函館校 地域プロジェクト

放課後学習支援プロジェクト

児童に家庭学習の習慣を身につけさせることを目的とし、  
自主的に学習に取り組めるように、放課後に学習サポート  
を行った。市内の小学校で、放課後の時間を活用し、児童  
と大学生との勉強会を実施した。活動の成果と課題、改善  
策について発表する。

チーム代表 近藤花音  
チ ャーム 員 三浦茜・新初くるみ・市来扶花・井上慶人・  
川原哉・藤本柊・坂本文音・柳谷紗良

## ブースセッション参加チーム パネル展示や実演・解説

パネル展示を前に各種のデモンストレーションや解説などを行います。

### 1 CCH チーム ライブラリーリンク

人をつなぐ 本でつなぐ

ライブラリーリンク(LL)とはキャンパス・コンソーシアム函館  
のもとに設置された図書館連携のための組織です。市内8高  
等教育機関と函館市中央図書館が2009年から連携していま  
す。函館市内には、個性のある図書館がいくつもあります。現  
在、ライブラリーリンクに参加している図書館の蔵書数の合計  
は、150万冊以上。これは、大規模図書館にも匹敵します。ライ  
ブラリーリンクは、読書をはじめ、学習や研究のより充実した  
環境を函館地域のみなさんに提供するため活動しています。

チーム代表 キャンパス・コンソーシアム函館

### 2 未来大 チーム 長田・西沢研究室デザイン領域④

元気がない日常を前向きにする  
UI/UX提案

周りを気にしすぎて疲れてしまう自身の体験をもとに、自  
分らしく過ごすきっかけを作るUI・UXデザインを提案しま  
す。視覚や触覚を通して現実世界と繋がる「モノ」を紹介す  
ことで、意識の切り替えを促し気分を前向きにすることを  
目指します。

チーム代表 先崎美南

### 4 函館大 チーム ガタンゴトンチーム

函館市電をもっと身近に

函館の中心部にある路面電車をもっと身近に取り入れる  
ために現状の課題を調査した結果や改善案を発表。また、  
市電を使用することによる環境へのメリットや函館市を活  
性化させるために自分たちでどのようなことができるか。

チーム代表 伊世快地  
チ ャーム 員 兼田悠・齋藤愛翔・松山大翔・橋田侑醒



### 5 未来大 チーム ミライケータイプロジェクト PAT

旅行の予定、パッと決めよう。

グループ旅行の幹事に向けたサービスを開発しています。  
幹事は返信を待つことに負担を感じます。PATでは、参加  
者がスワイプで手軽に回答できるため、幹事の「待つ負担」  
を解消します。ぜひデモを体験して、PATの手軽さを実感し  
てください。

チーム代表 石川大雅  
チ ャーム 員 中川陽斗・堀博雅

14特別参加

チーム 青森中央学院大学  
推し活研究会

推しは大学生を動かすのかー推し活と消費・幸福度・地域イベント参加意向に関する研究ー

本研究では、大学生の推し活と支出、幸福度、地域イベントへの参加意向との関連をアンケート調査から分析する。推し活を若者の消費行動として捉え、その実態を明らかにするとともに、青森・函館の観光・イベント活性化への応用可能性を検討する。

チーム代表 工藤壘

チー ム 員 猪股暖斗・小山内愛莉・大場楓

15未来大

チーム 長田・西沢研究室デザイン領域⑤

頭を空っぽにしてリフレッシュするUXデザイン提案

過剰な情報摂取による精神的疲労に対し、意識的に「頭を空っぽにする」ことでリフレッシュを促すUXデザインを提案します。手を動かして制作する体験を通じて、頭を空っぽにするための要素を探索しています。

チーム代表 遠見莉央



30特別参加

チーム 函館中部高等学校  
ultraviolet DUO

光がクモの造網に与える影響について

私たちはクモが造網する際の条件として光がどう関わっているのかを明らかにするためクモが光の近くに巣を作るのではないかと仮説のもと片側から光を照らした状態で飼育ケース内のどこに巣を作ったのかを記録する研究を行っています。

チーム代表 藤岡春歩

チー ム 員 工藤みつぎ

31未来大

チーム 使ってもらって学ぶフィールド指向  
システムデザイン2026 町会グループ

町会班長の負担軽減をデジタル化で支援する「委任状・出欠回収ツール」の開発

学内のプロジェクト学習で、函館市の町会が抱える問題をデジタルで解決することを目指しています。町会へのヒアリングから班長の負担の大きさが分かり、委任状と出欠の集約を支援するツールで業務を軽減し、町会活動を支えます。

チーム代表 澁谷淑江

チー ム 員 古瀬樹・山崎壮馬・富岡空

32特別参加

チーム 北海道函館西高等学校

対話型鑑賞における「作者と鑑賞者の相互作用」

身近な作品を題材とした対話型鑑賞における、鑑賞者と作者の相互作用を検証。対話によって互いの解像度を引き上げる「双方の成長サイクル」を見出した。地域のサードプレイスとしての成果をもとに、持続可能なプログラムのモデル化について考察・提案する。

チーム代表 黒木ひより

16特別参加

チーム 青森中央学院大学  
国際交流チーム①

映画に映る中国社会の変遷

中国を舞台とした映画作品を題材に、時代とともに変化したきた中国社会の姿について考察した。作品に描かれる人々の生活や価値観、都市の景観、経済発展などに着目し、映画を通じて中国の社会・経済の変遷を読み解いた。

チーム代表 赵明恩

チー ム 員 胡広武・李虎・馬靖杰

17函高专

チーム 函館高专生産システム  
工学専攻生体情報研究チーム

生体情報計測で創る未来

私たちの体から出る「信号」を測ると、どんなことが分かるのでしょうか？今回は、血液の流れを示す灌流指標（PI）と、脳の活動を示す脳波から分かること、さらにそれらを使ってできることを紹介します。

チーム代表 山下千咲

チー ム 員 古田晃一朗

18未来大

チーム 長田・西沢研究室デザイン領域③

キリンはなぜかわいいのか？

人がキリンを思い浮かべたときに記憶に残っている特徴を調査し、「かわいい」と感じる要素との関係を明らかにします。さらに、調査結果をもとにキリンの立体作品を制作し、かわいさを生み出す造形について考察します。

チーム代表 上坂真愛

33函短大

チーム 保育士のたまご×函短

「函館市の保育士不足解消に向けた課題と展望」ー行政調査と保育学生アンケート調査からー

函館市では保育士不足が課題となっている。行政調査および保育学生へのアンケート調査を行い、保育士の確保・定着に関する課題を明らかにした。その結果をもとに、学生が求める支援と行政・保育現場・養成校の連携のあり方について検討した。

チーム代表 早坂百伽

チー ム 員 福地莉子・津國一穂・土門華那・野左近紫織・野澤侑来

34特別参加

チーム 青森中央学院大学  
東北町AIと農業経営チーム

東北町の農業経営の効率化と地元農産物の活用

東北町をフィールドとして、これまで取り組んできた農業支援や地域資源の活用について紹介する。大学生による援農活動を通じた農業経営の効率化に加え、地元農産物を活用した商品開発などの実践を取り上げ、地域農業の活性化に向けた可能性を考察した。

チーム代表 原川深青

チー ム 員 長崎武明・柳谷安紀

35未来大

チーム DLITE5

境界なく人々の生活を支援する技術

「境界なく人々の生活を支援する技術」をテーマに、函館視力障害センターとの連携やアイデアスケッチ等の取り組みについて発表します。日常生活を快適にする「コップ」と「調味料容器」のプロトタイプング状況を報告します。

チーム代表 森下竣介

チー ム 員 矢口凌・芳浪美月・小嶋光・秋本鐘之介・川本彩乃

19北教大

チーム 函館の死生学研究プロジェクトチーム(地域と宗教文化班)

函館の看取り文化を支える語りー宗教者の知恵を地域資源に

函館の宗教者が語る死の受容の知恵を地域の死生観を育む重要な資源として紹介する。死後の世界観や別れの語りは無宗教の人々にも生き方のヒントを与え、より良く生を営むための視点をひろく、地域で生と死をつなぎ直し、心の支えとなる文化の再生を探る。

チーム代表 森田結栞

チー ム 員 佐藤こはる・豊原大地

20未来大

チーム 高度ICT演習 ばすういふと

函館地域のバスの利用をサポートする「ばすういふと」

既存のバス検索・ロケーションアプリの利点を取り入れ、使いやすいデザインに配慮した函館市向けバス検索アプリを開発しています。リアルタイムの情報を取り入れた検索システムを開発し、より使いやすいものを目指して進めております。

チーム代表 小原叶夢

チー ム 員 遠藤七佳・佐々木羽琉・斉藤健太・小松奈央・伊藤颯一郎

21特別参加

チーム 大学コンソーシアム学部ひろさき  
学生委員会いしてまい

より良い弘前を創る・発信する

”いしてまい”とは津軽弁で「良すぎて仕方がない」を意味し、「弘前のために何ができるのか」を考え活動しています。これまで行ってきた飲食店企画や市立博物館・美術館への取材等の取り組み、今年度実施した活動及び展望を紹介します。

チーム代表 村上葵

チー ム 員 田北颯桜



36函館大

チーム けあらば

人のつながりに支えられる地域福祉

本研究では、地元の地域包括支援センターでのインタビュー調査をもとに、少子高齢化や人口流出によって人びとの関係が希薄になりつつある中、いかに地域が高齢者を含むさまざまなニーズを持つ人たちのつながりの場となっているのかを明らかにする。

チーム代表 斉藤央大

チー ム 員 相木玲和・鏡桃香・工藤悠磨・小林真大・佐藤亜瑚・柴田怜士・中村遥・保川美和・三浦吉平・宮下蓮・吉田匠之介

37未来大

チーム 使ってもらって学ぶフィールド指向  
システムデザイン2026 教育グループ

小学校の探検学習をICT技術によって支援する「デジタル町探検アプリ」の開発

デジタル町探検とは、旭岡小学校の1,2年生が旭岡地区を散策する「探検学習」をICTで支援するサービスである。撮影した写真を地図上に表示するなどの機能によって、児童の思い出作りをサポートし、地元のことを好きになってもらうことを目指す。

チーム代表 渡邊祐矢

チー ム 員 岩本恭矢・鈴木純矢・山崎拓己

22未来大

チーム ミライケータイプロジェクト  
ハコニワ

子どものモノを残すデジタルの箱

小学生のときに作った工作、実家にまだありますか。ハコニワは、子どものモノを3Dスキャンしてデータで残すサービスです。ブースでは、モノをスキャンして残り、あとから見返すまでの流れを実際にお見せします。

チーム代表 永井翔哉

チー ム 員 大夢賀優輝・坂本晴紀・西山嘉輝

23函館大

チーム グランドスラム空き家

眠る家が語る地域の未来

私たちは、空き家を単に減らすだけでなく、地域の現状や将来のニーズに合わせて、新たな施設やサービスへ活用することが重要だと考えました。そこで空き家を地域の資源として捉え、現在だけでなく未来にも価値を残せる様にする案を制作しました。

チーム代表 木村悠人

チー ム 員 板垣明翼・今川聖哉・本波凱

24特別参加

チーム 青森中央学院大学  
東北町スイーツ班

地域連携による小規模ビジネスの可能性

地域おこし協力隊によるスイーツ開発を事例として、地域連携による小規模ビジネスの可能性について研究した。聞き取り調査などを通じて、地域資源を活用した商品開発の特徴や課題を整理し、地域活性化につながる可能性について考察した。

チーム代表 福土瑠乃

チー ム 員 阿保友理乃・古川夕莉・山口憂那

38特別参加

チーム 函館大学付属柏校高等学校  
柏校X-Lab ICT Generic Team

ICTを活用した学校祭での混雑度可視化システム

私たちは、学校祭の混雑は「情報共有の不足が一因ではないか」と考え、低コストで導入できるICTを活用し、混雑状況をリアルタイムで見える化するシステムを開発しました。より快適で誰もが楽しめる学校祭を目指した挑戦を、ぜひご覧ください！

チーム代表 野澤陽夕

チー ム 員 酒井睦斗・倉堀駿

39函高专

チーム 函館高专海援隊

どんな漁港にも馳せ参じる海ゴミ回収路線(からくり)

漁港の岸壁に溜まる浮遊ごみを、海面下に沈めたかごで1時間に1回すくい上げ、自動で回収する装置を開発しています。松前町・菅原組と連携し、松前港で実証実験を行いました。どんな漁港にもあわせる安価で丈夫な構成を目指します。

チーム代表 堀口雄伍

チー ム 員 阿佐竜馬・斉藤悠

40特別参加

チーム 函館中部高等学校  
科学部アレロパシー班

アレロパシー物質の散布時の植物及び土壌への影響の解析

本研究では酢酸により抽出したアレロパシー物質を用いてプラントボックス法や栽培実験を行い、その発芽阻害率や除草効果を調べた。その結果、原液、10倍希釈、50倍希釈、100倍希釈のいずれも高い除草効果を十分に持っていることが確認された。

チーム代表 小坂海音

チー ム 員 伊藤禅・筒井朔啓・小林優李



25未来大

チーム 長田・西沢研究室 ドローンチーム

平常時と非常時のフェーズフリー運用が可能なドローン

平常時は観光用の記念撮影や農業用の圃場管理に活用し、地震・噴火等の災害状況把握やクマ出没・行方不明者捜索等の非常時には、河川・建物沿いの飛行経路自動生成、クマの画像認識、リアルタイム映像共有を備えたフェーズフリーなドローン運用システムの提案

チーム代表 内山颯大

チー ム 員 高橋慧流・有本陽太・大西紅葉・澤田太陽・田中遼光

26函高专

チーム ストーンヒル

シグナル増強機構による金属の高感度検出ツール

亜鉛と銅を「光らせて見る」センサー分子を紹介します。我々は、一つの金属に対して多数の蛍光分子を生成して微量の金属でも検出可能な技術を開発しました。有色金属を薄めてほぼ無色の液体でも光で金属検出するデモ実験を通じて、その有用性を紹介します。

チーム代表 石岡心花

41北教大

チーム Project 0453

ゴミ箱の中身のぞいてみた～ペットボトルのキャップ外して捨ててますか～

2026年8月、函館市の大学構内のゴミ箱6か所で、啓蒙ポスターによるペットボトルキャップの分別率向上効果を検証した。掲示前後の分別率に統計的有意差は見られず、ポスター単体による視覚的アプローチのみでの行動変容の難しさが示唆された。

チーム代表 齋藤優心

チー ム 員 深野煌太・菅原大輝

42函館大

チーム はじかれ者たちの逆襲劇

はじき野菜を起点とした道南地域の「域内循環」モデルの構築と実証

廃棄される「はじき野菜」を起点に道南地域の「域内経済循環」の構築を目指す産学連携の実証実験を行いました。この成果から、【生産・物流・販売】を繋ぐ持続可能な地域経済モデルの設計と社会実装に向けたビジネスの可能性について報告します。

チーム代表 谷内晴晴

チー ム 員 伊東脩弥・川代莉音・工藤終二・熊谷慎・見年代美心・小園俊馬・小林聖也・杉測流星・福井紀奈・本田知希・水尻麗羽

43特別参加

チーム 青森中央学院大学  
サードプレイスチーム

大学生が考える小学生向けサードプレイスの実践

大学生が主体となり、小学生が地域で安心して学び、交流できるサードプレイスづくりを考案した。学習支援やスポーツ活動を通じて、大学生と小学生、地域のスポーツクラブが交流する場を創出し、地域連携の可能性を考察した。

チーム代表 坂本俊太郎

チー ム 員 大向凌羽・村中優斗

27北教大

チーム 北教大チーム木村

函館市のジェンダーギャップ解消に向けた調査分析

函館市委託事業として、市内の民間企業におけるジェンダーギャップ解消に向けたインタビュー調査を行いました。現場で生じているジェンダーバイアスの現状と、解消に向けて実践されている取り組み事例を紹介します。

チーム代表 小向光

チー ム 員 阿部悠生・鈴木優花・高尾初芽

28未来大

チーム 高度ICT演習 Dotto

未来大生支援アプリ「Dotto」

本グループは、未来大の学生を支援するポータルアプリ「Dotto」の運用・開発をしています。学内の分散して見つけにくい情報を一元化し、学生生活を支援することを目的としています。アプリはiOSとAndroidで利用可能です。

チーム代表 細田彩香

チー ム 員 大須賀雅也・及川寛太・齊藤輝・高橋慧流・上坂真愛・門脇知香・三上風咲・山崎壮馬・及川菜央・高橋咲好・米津拓恭・高橋心空

29特別参加

チーム 東京理科大学長万部キャンパス  
マンベいず

自己開示しやすい場をつくるには

私たちは、私たち自身の関係性から考えて、より深い「自己開示」ができる場を「生きている」と設定し実現しようとしてきました。自己開示しやすい環境には共通する条件があると考え、それらを明らかにし、実現までの過程を発表します。

チーム代表 長谷川裕輔

チー ム 員 小野華潤・小勝進太郎・平井森理・和田花凜

44未来大

チーム 長田・西沢研究室 防災情報チーム

内閣府新防災総合情報システムの活用アプリケーション

災害情報の転記・突き合わせをAIが自動化。写真や報告をEET分類し重複を比較、職員は確認・承認するだけでSOBO-WEBへ送信できます。

チーム代表 高橋慧流

チー ム 員 籠谷樹人・川田侑奈・田中遼光



45特別参加

チーム 青森公立大学  
青森まちなかしかへらあ〜s

青森駅前市街地活性化の取組

青森まちなかしかへらあ〜sでは、青森市中心市街地での清掃活動やイベントのボランティアを通して、中心市街地活性化に向け尽力しています。今年度も市内大学生を対象とし、中心商店街との連携イベントを企画中です。

チーム代表 杉菜名

チー ム 員 中野優花・佐々木悠衣・佐藤颯太・金澤海斗・佐藤泰地・木村優太

46

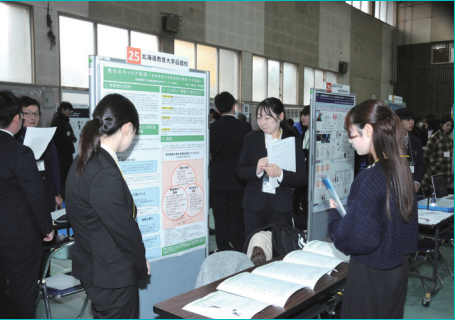
未来大

チーム  
はこんだて

家庭と給食をつなぐアプリはこんだて

函館市内の学校給食情報をスマホで手軽にチェック。献立表や栄養情報などを掲載。市役所保健給食課や学校栄養士と連携し、より良いアプリを目指しています。今年度はアプリ改善に向けて機能の見直しやユーザ調査などを行っています。

チーム代表 中村亮太  
チー ム 員 岡村拓磨・本間直樹・河合龍・澤田明衣



47

特別参加

チーム 東京理科大学長万部キャンパス  
D-24

”ヒトデ”でプレイスメイキング

長万部の厄介者として扱われている一方、アセットである”ヒトデ”に着目し、漁業と農業、そして私たちが一緒に考え、共有できる場作りを追求してきました。ヒトデを通して生まれた地域との関わり、私たちににとってのプレイス(居場所)とは何かを紹介します。

チーム代表 脇坂知里  
チー ム 員 川端悠愛・金コヲ

62

函館大

チーム  
函館移住させ隊

また来たいから住みたいへ

函館市の人口が減少傾向にあるいどうやって増やすことができるか考えたときに大分県のスリルアップ移住と函館の移住政策を比較してみて函館でも生かせる政策があるかもしれないと思い移住について調べました。

チーム代表 成田蒼空  
チー ム 員 菊池翔太・戸嶋快吏

63

未来大

チーム  
長田・西沢研究室 デザイン領域①

生を全うできなかった食べ物たちが  
営む世界の提案

好き嫌いや不注意など様々な要因から残してしまった食べ物を「生を全うできなかった食べ物たち」としてキャラクター化し、食育の入口となるように活用しています。キャラクターとの関わりを通じ、日本人がもつ「もったいない」意識を呼び起こす試みです。

チーム代表 天野霞

64

未来大

チーム  
仮想生物 2026

仮想生物

日本各地の風習や文化、伝説、神話を調査し、その土地の特性をもとに仮想生物を制作しました。動きや人の反応を通して、個性豊かな仮想生物とのインタラクションを楽しめます。

チーム代表 池田啓吾  
チー ム 員 木村美悠・鈴木直浩・川口紗奈・寺島菜月・菊池純大・大賀美咲

48

大谷短

チーム  
NUDGES LAB

「盗まないで」は、もう古い！  
一人の「心」をくすぐる無人販売術ー

無人販売でお金を払わずに商品を持ち去る行為をどれだけ抑制できるか、行動経済学の理論を参考に実証実験を行いました。厳しい言葉の貼り紙や監視カメラに頼らずに、人の「心」をくすぐることで行動を変えることができるかに迫ります。

チーム代表 佐藤勇心  
チー ム 員 江成健児・越野美帆・藤島志乃・吉田龍

49

未来大

チーム  
長田・西沢研究室 ロボットチーム①

地域に根ざした  
コミュニケーションロボット

函館市をフィールドにコミュニケーションロボットの活用方法を提案します。町内会で住民の交流を促すロボット「いっしょー」と、函館の観光地をより盛り上げるロボット「ゴリ丸」の2つを展示し、それぞれの場でのロボットの活用方法を紹介します。

チーム代表 籠谷樹人  
チー ム 員 所司泰知

50

北教大

チーム 函館の死生学研究プロジェクト  
チーム(地域と医療文化班)

函館市の在宅看取りを支える地域モデルの構築へ向けてー医療者の語りからみえる未来

「最期をどう迎えたいか」。その問いに地域がどう応えるかを探るため、看取り医療の現場を丁寧に調査し、家族と本人が安心して過ごせる支援の形を描く。増える在宅看取りに向け、医療関係者の声をもとに函館から未来の看取り支援モデルを考察する。

チーム代表 佐竹来実  
チー ム 員 奥山菜穂・沼澤佑実



65

函高専

チーム  
シオンオールスターズ

酒粕の堆肥化による  
地域循環モデルの構築

函館唯一の酒蔵「五稜乃蔵」の酒粕を有効活用し、地域の有機資源と組み合わせた堆肥化技術を開発します。実証試験を通じて資源循環を実現し、持続可能な農業と酒造業を繋ぐ地域循環型モデルの構築を目指します。

チーム代表 近藤志穂  
チー ム 員 黒川拓実

66

特別参加

チーム 青森中央学院大学  
東北町染色班

地域資源を活かした  
染め物による地域活性化

地域資源を活用した染め物に着目し、地域活性化の可能性について発表します。地域で活動する地域おこし協力隊との連携を通じて、染め物の魅力や地域資源としての価値を検討するとともに、学生の視点から地域の魅力発信や新たな活用方法について考察した。

チーム代表 森瑛太  
チー ム 員 土岐真之介・栗山拳・沼澤遼・佐々木洗明

51

特別参加

チーム 函館中部高等学校  
Ray Raccoon

函館山夜景の大気光学的定量評価と  
視認性予測システムの開発

夜景の見え方と気象情報について、先行研究ではSPM濃度と視程に相関があるとされたが、視程のデータが相対的で明確な数値評価ができていない。そのため、景色を光学的に評価し、気象要素との関連性や気象要素からの景色の見え方の予測を研究している。

チーム代表 藤村侑己  
チー ム 員 菊池悠平

52

未来大

チーム  
長田・西沢研究室 ロボットチーム②

顔を持たないロボットデザイン

ロボットの「手足」に着目し、新たなソーシャルロボットの形を提案します。顔やキャラクター性を排することでユーザーの過度な期待を抑え、技術的限界による落胆を防ぎつつ適切な期待値を維持したインタラクションの構築を目指します。

チーム代表 澤田一嘉

53

函館大

チーム  
Hakodate Well-being Lab

住み続けたいまちへー都市の生活満足度  
から考える函館の人口減少対策ー

本研究の目的は、人口増加・減少都市の人口移動と生活満足度の関係を軸として、加えて年齢構成、雇用、交通、住宅などを比較することによって、函館市の人口減少の要因を明らかにし、今後必要な人口減少対策を検討することである。

チーム代表 下地翔翔  
チー ム 員 金丸竜大・元村陸・白鳥珠稀・室田隆英

67

特別参加

チーム  
市立函館高等学校

ゲームを活用した地域活性化は  
どのような経済効果が生まれるのか。

函館の観光業のさらなる発展に向け、ゲーム要素を取り入れたデジタルスタンプラリーや高校生視点の音声ガイド付きパンフレットを作成した。もっと多くのサンプルでの検証が必要だが、観光客を穴場へ誘導・分散させる効果が期待できることがわかった。

チーム代表 二川鈴

68

北大水

チーム  
チーム・ホソメ

奥尻島産「ホソメコンブ」の  
『フロロタンニン』の特性

奥尻島産の「ホソメコンブ」は奈良時代に朝廷にも献上されていました。本研究では、ホソメコンブのブランド価値のさらなる向上を目指して、ホソメコンブの『フロロタンニン』成分に着目し、そのUV吸収作用・抗酸化作用・チロシナーゼ阻害作用を調べました。

チーム代表 今西遼空  
チー ム 員 曾我英利・長澤和貴・篠原祐治・熊谷祐也・岸村栄敬・布村重樹

69

未来大

チーム  
高度ICT演習 QuizMaker

誰でも簡単にクイズゲームを作れる  
「QuizActive」

誰でも簡単にクイズゲームを作れるようなソフトウェア「QuizActive」の開発に取り組んでいます。本グループは江差郷土資料館と連携しており、そこで実際に運用することが現状の目標です。

チーム代表 宮原良太  
チー ム 員 小野田耀・北澤陽・田本亜樹斗・鈴木純矢・文現・佐藤敬信・八呂板純平

54

未来大

チーム  
ツクルート

「これ作りたい!」から始まる学びー探究学習の  
ためのスキルツリーの自動生成システムの提案

「ゲームを作りたい」などの目標から、必要な知識・スキルをAIがツリー状に逆算して示す学習支援システム「ツクルート」をブースで体験できます。小学生への実践の様子や、ツリーの形と学習の負担の関係を調べる取り組みも紹介します。

チーム代表 田久保拓生

55

北教大

チーム  
メダカゼミナール函館本校

メダカも先輩を見て育つ?～輪くぐり  
実験の成果と見えてきた飼育の壁～

メダカの学習が先輩の真似で早まるか、輪くぐり実験で検証した。同居した後輩メダカは先輩の約半分の回数で習得し、社会学習能力が示唆された。一方、環境不適等で多数が死亡したため、飼育方法の改善とデータ拡充が今後の課題である。

チーム代表 丹治佳偉  
チー ム 員 阿部利緒菜・金子修也・小山石隆・中田琉々人・成田吏弘・齋藤優心・深野煌太・菅原大輝



70

特別参加

チーム 東京理科大学長万部キャンパス  
April's

おしゃアート

理科大生と長万部の人々が気軽に話せる関係を目指し、アートを通じた交流のきっかけづくりを実施。話題のきっかけになる「シャッターアート」と、共同作業で交流を深める「チョークアート」の二つのアートの役割を生かし、人々をつなぐきっかけをつくる。

チーム代表 橋本李花  
チー ム 員 小倉陽詩・枝光若葉・田村嘉偉・渡辺士紗

71

未来大

チーム  
ICT演習 はこだてsweets

函館スイーツの魅力を伝える  
Webアプリ開発

函館のスイーツ消費拡大を目指すはこだてsweetsです。今年度はデザイン、フロント、バックエンドの3班体制で検索Webアプリ「ちょこはこ」を開発しました。探す楽しさと購入に繋がる、いっつも違う特別な体験を提供することを目指しています。

チーム代表 角脇輝映  
チー ム 員 佐々木乃愛・梨本葵・松田藍子

72

企業・団体

ワークラボ函館

ワークラボ函館における活動内容

「ワークラボ函館」は、「ネットリソースマネジメント」と「ハコレコドットコム」、さらに「函館市」の三者が締結した連携協定に基づいて、2020年に共同で開設した拠点です。学生の皆様に民間企業の活動をお伝え致しますので、お気軽にお立ち寄りください

チーム代表 山岸純也  
チー ム 員 宮下薫・米原孝星



56

未来大

チーム  
おさかな日和

Aquarist:デジタル水族館の社会実装への挑戦

函館の海をデジタル上で再現するプロダクト「Aquarist」のインタラクティブ展示を行う。来場者に実際にプロダクトを体験していただき、函館の海について楽しみながら学べる機会を提供する。

チーム代表 八谷隆斗  
チー ム 員 祐川雅治・山本たくま・館合望・池島諒真・齋藤花純・佐藤雅弥・中村優花・藤井康輔・大西歩希・浦口遼・岡田鈴華・井内恒之介・中根大輝・藤田大晴

57

特別参加

チーム 青森中央学院大学  
Connect Lab

LINEの返信速度と関係形成不安  
ー青森県大学生を対象とした研究ー

LINEの返信速度や既読・未読スルーと、大学生の恋愛関係形成への不安との関連をアンケートで分析する。SNS上のやり取りに伴う、恋愛の開始や継続への不安を明らかにし、恋愛関係形成への支援策を検討し、青森県の未婚化について考察する。

チーム代表 大沢夏美  
チー ム 員 敦賀望・二野宮遙

58

函短大

チーム  
もぐもぐ調査隊

知ってる? 摂ってる? カルシウム!

カルシウムは体づくりに欠かせない大切な栄養素の一つです。みなさんはカルシウムのはたらきを知っていますか? 毎日の食事でどのくらいカルシウムを摂っていますか? 中高生を対象としたアンケート調査から、私たちの食と健康を見直してみましょう。

チーム代表 木村永幸  
チー ム 員 小林紗也乃・本間凜乃美・吉田幸歩

73

CCH

チーム  
CCHふるさとラーニング

函館・道南ふるさとラーニング  
産業編(ワイン)

CCH函館では、函館・道南地域の歴史や産業等をはじめとした魅力・現状を収めた動画教材を作成しました。今回ご紹介するのは、産業編「ワイン」。北海道ワインの特徴やぶどうの栽培環境、ワインを通じた産業振興・地域活性化について紹介します。

チーム代表 キャンパス・コンソーシアム函館

74

未来大

チーム  
未来大 プロジェクト学習No.7

函館山ロープウェイを  
キャラクターロボットで盛り上げる

函館山ロープウェイを盛り上げるため、キャラクターロボットを活用した交流の仕組みを提案します。現地調査や職員への聞き取りをもとに、来訪者が楽しみながら函館の魅力を知ることができる体験を目指します。

チーム代表 新井田心優  
チー ム 員 川田侑奈・坂本圭駿・嶋松裕・千葉萌々葵・佐々木羽琉・宮前陽・本間唯華・永原朱夏・浅利駿允・猪股真緒・田中瑠・碓井友基

59

未来大

チーム  
長田・西沢研究室 デザイン領域②

インタラクティブな作品作りを通した  
AIと人との距離感の探求

AIは身近な存在になった一方、その仕組みや判断の過程は分かりにくく、人との距離感も曖昧です。本研究では、インタラクティブな作品の制作と展示を通して、人とAIがどのように関わり、共存していくのかを考えるきっかけを提示します。

チーム代表 内藤美紗希

60

特別参加

チーム 函館大学付属柏校高等学校  
柏校X-Lab Sea Local Innovation

道南の新たな特産品 誕生!?

私たちは、未利用海藻である「ダルス」に秘められた可能性に着目しています。地域の特産物と組み合わせた新たな商品を開発! その魅力を広め、食品ロスを減らし、地域をもっと元気にすることを目指して活動しています!

チーム代表 豊澤哲平  
チー ム 員 遠山葉月・仲村亮汰

61

未来大

チーム ミライケータイプロジェクト  
SHABET

秘密をかけて仲良しに!? SHABET

友達との秘密、知りたくないですか? 自分の秘密を賭けて遊び仲良くなるゲームアプリ「SHABET」を開発中! そのスリルが、顔見知りを一気に親友へ変えます。大学生や新社会人の仲を深める新しい遊びです。会場でデモを用意しています。

チーム代表 永田来煉  
チー ム 員 阿部大晟・大嶋泰治・大野夏・藤井脩也

75

特別参加

チーム 青森中央学院大学  
国際交流チーム②

ベトナム産コーヒーの海外輸出促進

ベトナム産コーヒーの輸出実績や主要輸出先などのデータを用いて、海外市場への輸出促進について分析した。輸出価格や市場条件を変化させたシミュレーションを行い、輸出拡大に有効な条件や市場を検討し、今後の輸出戦略について考察した。

チーム代表 TRAN TUNG LAM  
チー ム 員 NGUYEN THE QUAN・NGUYEN HOANG MINH TRI

76

函館大

チーム 函館『地域』  
アクティベーション研究班

函館温泉を活性化へ導く行動経済学

函館の温泉は観光と住民生活の双方で重要な資源であり、さらなる有効活用には両者の満足度の均衡を保つ運用が不可欠である。本発表では、観光客と地域住民それぞれの選択の動機を行動経済学の視点から分析し、双方が共存できる最適な運用方法を提案する。

チーム代表 岡田雄太  
チー ム 員 小原和真・鎌田モナ・狩谷悠太・竹越翔聖・田村駿弥・廣澤優詩・星野優二・三輪海生・吉崎瑠介

77

企業・団体

北海道学術振興財団

南北海道地域の学術研究と  
科学技術のために

当財団は「北海道地域における学術研究の振興を図り、もって科学技術の進展を担う人材の育成並びに地域の学術、教育、文化及び産業の発展に寄与すること」を目的に、大学教員等の研究や海外学会での発表、大学生・大学院生の留学に対して、助成をしています。

チーム代表 出林好成